

さくら



令和8年3月16日(月)

先週の金曜日、66期生が本校から巣立っていきました。ご来賓としてご臨席の皆様から、「厳粛ですばらしい卒業式でした」、「心が動かされる卒業式でした」などのお褒めの言葉をいただきました。これは、66期生が大切にしてきた「凡事徹底」が体现された結果です。4月には69期生が入学してきます。67期生、68期生の皆さんは、66期生に倣（なら）い、新入生をしっかりとリードできる先輩となってください。

企業人に学ぶ

先週末、学生時代の友人と会いました。私が卒業した学校は、教員になっている人は少数で、ほとんどの卒業生は企業に就職しました。彼は製造業に就職し、製品開発・製造の部門に携わってきました。彼は来年の3月に定年なのですが、これからの会社を担っていく人に伝えたいことを話してくれました。そのうちのいくつかを皆さんに伝えます。

1 「仕事力」よりも「人間力」

どのような職業でも「仕事力」は大切。「～ができる」、「～の資格を持っている」というものです。しかし、それよりも大切なことが「人間力」。「コミュニケーション力」、「誠実さや優しさ」、「自己管理できる力」などです。このような力を持っている人は、組織全体を意識した物の見方・考え方ができ、自分のものさしではなく、相手のものさしで物事を判断できます。

2 「だめだし」してくれる人を大切にす

社員相互の「だめだし」のない組織は、その運営が危ういものです。Aさんが、いつもBさんに相談していたとします。BさんはAさんに「問題ありません」、「いい考えですね」などと、肯定的な意見しか返さなかったとします。そうであれば、AさんにとってBさんは安心感を与えてくれる存在であり、都合のよい答えを返してくれるだけの存在となります。こんなことが組織内で常時行われれば、「だめなこと」が平然と実行されてしまうのです。そして、その組織は徐々に壊れていくのです。だからこそ、私たちは、理由をつけて「だめ」なことは「だめ」と言ってくれる人を大切にしなければならないのです。

3 「責任転嫁」をするな

仕事がうまくいかなくなると、上司が悪い、同僚が悪い、会社の環境が悪いと責任転嫁する社員が、いつの頃からか多くなったといいます。自分の力の無さは棚に上げて。挙げ句の果ては、ある日、突然の退職。生涯一つの組織で勤め上げるという風潮が無くなってきているとしても、あまりの無責任さにあきれることがあるそうです。何かうまくいかなかったとき、まずは自分はどうだったのか、ということをも自分自身で評価・分析できることが大切なのです。

以上のことがらは、中学生である皆さんの生活の中でもいかしていけると考えます。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

